

私のおすすめ

福山大学 保健管理センター 金田 静

私のおすすめは、絵画の鑑賞です。

小さい頃から絵を描くのが好きでしたが、あまり絵と関わりを持っていなかったもので、働いているうちに絵が好きだったことも忘れていました。

就職して自分であちこち行けるようになった時に、偶然見かけて入って見たのが「モネ」の絵画展でした。きれいな色合いの絵を見ていると気持ちが落ち着く気がしました。

本当に絵に触れたのは、スペインに旅行に行った時に訪れた「プラド美術館」です。政治的に関わる絵として厳重に警備されている中で見た、「ピカソ」の《ゲルニカ》という作品は迫力があって圧倒されました。写真で見ると実物は違いでしたし、美術館自体も大きくて1日では回りきれない位の展示がありました。スペインで美術の勉強をしている人が、時代背景と共に絵の説明をしながら案内をしてくれたのでとてもわかりやすく鑑賞することができました。日本語版の写真集も販売されていました。

「プラド美術館」は、もう一度行きたい場所になりました。

今私の住んでいる倉敷市にも、大原美術館があります。

この美術館は、画家の児島虎次郎の業績を記念する為に大原孫三郎が創設したものです。個人が収集した作品が展示されており、日本を代表する西洋美術コレクションと言われています。

近くにありすぎて、行っていなかったのが大原美術館へ行ってきました。



ツタで覆われた小さめの入口です。意外に美術館と思わないかもしれません

この日はとっても天気が良く、観光客がとても多く美術館も混雑していました。



重厚感のある本館で、入口を入るとすぐにあり見上げる感じます。

規模の小さい美術館なので近くで見ることができて、絵を見るのにゆっくりできました。
気に行った絵の近くで少しずつ場所を変えて、近くで見たり遠くで見たりと楽しみました。

本館には、「エル・グレコ」の《受胎告知》を、美術館の一角を専用にしてゆっくり鑑賞できるスペースが
作られています。色彩と絵の迫力はすごくて、絵の周囲にオーラがあるように感じました。

「クロード・モネ」の《睡蓮》が1枚あります。絵自体はそんなに大きくはないのですが、遠くから見てもと
てもきれいな絵だと思いました。《睡蓮》は何種類もあるのですが、お気に入りの1枚です。

「プラド美術館」で圧倒された「パブロ・ピカソ」の《頭蓋骨のある静物》がありました。ピカソに関しては
気持ちで感じる部分もありますが、その時代背景など説明がないと理解しづらい気がします。

久々に絵を見て、癒されました。

今後の夢は、フランス・パリで美術館巡りをしたいなど、ふと思いました。

美術館を出た後は、ちょっと観光客の様な顔をして、お土産物屋さんものぞいて美観地区の中を散歩しまし
た。とにかく人は多かったです。

すごく近くに住んでいるのに、なんだか旅行している気になってしまいました。

というわけで美観地区の写真もこんな感じです。

また、ゆっくりと旅行もしたいと思った日でした。

